

第13回 I S O E 運営委員会 出席報告

- . 月 日 2003年11月12日(火)～14日(木)
- . 場 所 IAEA 国連ビル F0118 会議室(ウィーン、オーストリア)
- . 出席者

[議長] Carl Goran Lindvall(Barseback; Sweden)

[幹部会メンバー]

Borut Breznik (NEK; Slovenia), Seong Ho Na (KINS; Korea),

Jean-Yves Gagnon (Centrale Nucleaire Gentilly-2; Canada)

[ISOE 事務局]

Stefan Mundigl(OECD/NEA), Khammar Mrabit(IAEA)

[ISOE 技術センター]

Monica Gustafsson (IAEA Technical Centre),

Christian Lefaure, Lucie D'ascenzo (European Technical Centre; CEPN),

David W. Miller (North American Technical Centre; U of Illinois),

小森一弘, 尾形亜紀子 (Asia Technical Centre; JNES)

[主要参加者]

宮丸邦夫(東電), Dae-Hung Cho(KINS; Korea)

参加者: 15カ国 約40名

. 議事概要

開会にあたって IAEA ゴンザレス氏(放射線防護関係の部長)とカール ISOE 議長の挨拶があった。

1. 各国からの報告

カナダ、チェコ共和国、フィンランド、フランス、ドイツ、日本、韓国、メキシコ、スロバキア、オランダ、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、米国から各国の被ばく状況やそれに影響した主要な事象、放射線防護に関する規制側、事業者側の動向等の報告があった。また、各技術センターがその活動状況を報告した。

2. 放射線防護・公衆衛生委員会(CRPPH)の活動

OECD/NEA ステファン氏から「公衆の健康と安全」と題するプレゼンテーションが行われた。CRPPH はメンバー各国に対し放射線防護システムの応用と規制面でタイムリーにその意味するところを明確にしながらに支援することを使命としている。そして放射線防護システムの発展、放射線上の意思決定におけるステークホルダーの役割、原子力緊急時計画の準備と管理、職業被ばく管理が主な関係分野である。

3. IAEA の活動

IAEA 原子力安全保障部放射線・輸送・廃棄物安全課のムラビット氏から「職業放射線防護

における IAEA の活動概要」と題するプレゼンテーションが行われた。

4 . ISOE が 2003 年に実施した項目

- ・ 2003 年 10 月現在、465 原子炉（運転停止も含む）のデータを取り入れた。運転中原子炉に関しては 93%（406/438）が対象となった。パキスタン原子力委員会も 2 基の原子炉と共に ISOE に加盟した。
- ・ 韓国は初めて ISOE1 データ収集に ISOE ソフトウェア ISOEDAT を用いた。多言語版ソフトウェアは韓国のソフトウェア環境に適応し、韓国語へ翻訳可能となった。
- ・ 2003 年に ISOE2 データが初めて収集された。
- ・ ISOEDAT には従来からのレポートも含め、193 のレポートが集められた。
- ・ グラフ機能ソフト MADRAS が改良され、ISOEDAT 同様に多言語化が可能となった。

5 . ISOE システムに関する評価

- ・ ISOE 事務局より、現場の放射線防護マネジャーによる ISOE システムへのデータインプットや利用を積極的に進めていくために、今後各国毎にナショナルコーディネーターを置くことが提案され、了承された。
- ・ ISOE データの活用を促す観点から web 化が議論された。韓国では韓国語版のみだが、既にデータを web 上で運用しており、それを参考に具体化し、次回会合で提案することとなった。

6 . WGOR 報告書について

ICRP 新勧告案がもたらす影響を検討するため、ISOE では放射線防護の運用に関するワーキンググループ(WGOR)を設置し、ICRP 新勧告案に関する放射線防護の実運用上の検討を開始した。会合は昨年来 4 回開催され「放射線防護の最適化」と題する報告書を取りまとめた。わが国からは「ICRP 新勧告に 50mSv/年、100mSv/5 年を残す事は管理区域作業のフレキシビリティを確保する上で重要であり、生涯リスクが上昇する事も他国に迷惑を掛ける事もない」と現状の従事者線量限度を新勧告に残す事を WGOR で明確に主張するよう強く要請した。

7 . 2004 年のプログラム

NEA 事務局が今回の議事録及び 2004 年プログラム案を作成し、参加国に送付する。

8 . その他

- ・ カナダによる CANDU 炉における ALARA 評価のプレゼンテーション
- ・ 欧州技術センターによるリヨンワークショップ(2004/3/24～26)の紹介。

9 . 次回予定

次回 ISOE 運営会議は 2004/11/17～19 にパリで開催する事となった。

感想

フランクな情報交換を通じて放射線防護のレベルアップに努め、成果を上げている。ISOE 事務局、欧州技術センター、北米技術センターは ISOE システム、特に ISOE3 の充実に注力しており、各国の積極的関与を求めている。

また欧州技術センター、北米技術センターはシンポジウムを主催するなどリーダーシップを発揮しつつ活発に活動している。

韓国もかなり力を入れており、発言力もある。

わが国は ISOE データを活用した評価を実施するなど高く評価されている。

各国の被ばく低減傾向に比べわが国は高値安定傾向であるが、その背景は理解されている。

今後わが国は ISOE に対する更なる積極的な貢献が期待されていると感じた。

以上